

ほっと連携

◆発行／北見赤十字病院地域医療連携室 北見市北6条東2丁目1番 ◆発行責任者／吉田 茂夫
http://www.kitami.jrc.or.jp/ E-mail : renkei@kitami.jrc.or.jp

新年度を迎えて

病院長

吉田 茂夫

●新病院建設における基本方針

日頃から当院に對しまして、ご協力・ご理解をいただいております。今冬は、天候の急変などがあり、暴風雪による痛ましい事故が起きたことも記憶に新しいところです。また、東日本大震災後から2年が経ちますが、被災者の方々には元通りの生活には至っていない状況もあり、我々はこの体験から、改めて予期をこえた災害に對しても思い巡らしながら、将来を見据えた計画を立て実行できるようにする必要があります。

北見・オホーツク地域も4月に入り少しずつ春の兆しを感じるようになってきました。4月1日には多くの新入職員・医師・研修医などを迎えて、当院におきましても新しい年度がスタートしたところです。さて、新病院につきましても、ご承知のように北見市、北見市議会、管内自治体などの多くの関係者のご努力・ご理解によりまして、市役所跡地の貸与と建設費用への補助をいただき、建設が始められました。皆様には改めて深く感謝申し上げます。



山止工事の様子です。



根切り工事の様子です。



アースアンカー打設状況です。



配筋工事状況です。



耐圧盤コンクリート打設状況他



マットスラブコンクリート打設状況



北見赤十字病院 荒川副院長、鈴木副院長 上野看護部長他現場視察（免震装置取付）

●新病院（新本館）の工事進捗状況について

平成24年9月20日から、新本館の工事が始まりまして、平成25年3月末段階での工事進捗状況ですが、地下12mまで掘削を行い、基礎工事及び免震階における免震装置の設置が終わり、地階の床スラブ形成のためのコンクリート打設を行う状況となっております。新本館に係わる工事出来高としましては、約12%程度となっております。

●新病院（その他）の工事予定について

平成25年3月末からはPET棟新設工事に着手し、年内に完成する予定で建設工事に取り組んでおり、平成25年度内には開院できるよう取り組んでおります。既存南館の改修工事は平成26年10月から着手を予定しており、その他既存館の解体、駐車場や外構の整備などを含め新病院整備に係る工事全体の完了予定は、平成27年12月末を予定しております。

就任ご挨拶

事務部長

前川 茂 晃



4月1日付で、北見赤十字病院事務部長を拝命し着任いたしました。

北見赤十字病院はオホーツク第三次保険医療福祉圏

において、地方センター病院として、又地域の基幹病院として、地域医療支援病院・がん診療連携拠点病院・救命救急センター等様々な機能を有しております。

そのような病院の事務部長を拝命したことは大変光栄なことです。反面大変な重圧を感じながらのスタートでした。

事務部長という責務を全うするうえで北見赤十字病院職員はもとより、地域の皆様や関係医療機関のご支援やご協力がなければなりません。

現在の既存建物は築後25年から40年経過する老朽化の進んだ施設があり、適切な医療機能の充実や災害に強い病院が求められている今日、地域の皆様の期待にこたえるために、質の高い医療と良好な療養環境の提供、さらには地域で必要とされる診療科・医療機器・検査機器・情報システム等を整備し、さらに一層地域の方々や安心・安全に暮らしていく社会資本としての近代的な病院づくりを目標として、現在は平成27年のグランドオープンを目指して新病院を建設中です。

また、北網地域医療再生事業のひとつである周産期救急ドクターカーの運用も開始されました。

ハード面では着実に目標に向かって進んでおりますが、いざ運用となると地域連携、医療連携を欠かすことができません。

つきましては今後ともこれまで以上のご指導・ご鞭撻を心よりお願いいたしまして就任のご挨拶とさせていただきます。

今後ともよろしくお願いたします。

■木村院長先生質問コーナー

診療科：脳神経外科・リハビリテーション科



趣味は何ですか？

—— 温泉巡り、城巡り、博物館巡り、史跡巡りなど、つまりじっとしていないことや非日常を味わうこと、甘いもの（特にあんこ系）とワイン

座右の銘は何ですか？

—— 競争心で頑張る効力よりも、分かち合い、助け合う方がその効力は何十倍にもなる。分かち合うと嬉しさは倍になり、悲しさは半分になり、助け合うと何十倍もの幸せが生み出される。

これだけは譲れない「こだわり」は何ですか？

—— 私は特になんかと思っていましたが、家内に言わせると書ききれないくらいいっぱいあるそうです。

特技は何ですか？

—— 3秒でねるとか、どこでも眠れるとか、1秒で起きるとか、震度1もわかるとか、救急車の音が一番初めに聞こえるとか、大したことのないものばかりですが、これも書ききれないくらいいっぱいあるらしいです。

《1.自己紹介・アピール》

家族は6人の子供と4匹の猫と家内一人です。家では家庭を顧みないダメな父親との評判もあるかもしれませんが。たまに家にいると、あっ！いたの？という反応で、その存在も父親らしくないのでおそらく子供たちはあんな父親にはなりたくないと思われているかもしれません。しかし、以前は家内のフォローのおかげで父親の威厳もありましたが、最近はどうでしょうか？私に誇れるものや宝物は家族かもしれないと最近思います。子供たちも親元を離れ、6人のうち上3人は旭川の学校に行き、彼らは3人の共同生活をしています。北見の家はまだ5人で生活していますが、これからどんどん旅立っていくのかと思うときみしい気がします。

《2.医療連携について思うこと》

7年前に開院した道東脳神経外科病院も現在は、脳神経外科、脳卒中に対して医師不足で地域の基幹病院としての機能が十分に果たせない北見赤十字病院の負担を軽減するために、民間では初めて国の公的資金援助を受けてオホーツク脳卒中医療センターを今年2月から開設しました。我々はオホーツク圏の脳神経外科、脳卒中の治療に対する責務を重く受け止めて、北見医師会をはじめ群医師会、北見赤十字病院などの赤十字病院や道立北見病院、遠軽厚生病院、網走厚生病院などの北海道厚生連などと連携して地域のニーズに応えられるようにします。脳神経外科、脳卒中の患者様の中でも、北見赤十字病院は救命救急センターとしての役割を持つ施設として、瀕死の患者様や総合病院としての役割を持つ施設として多発外傷、小児、妊婦をお願いしたいと思えます。高齢化が進み一人の患者様が多くの疾患を抱えている時代です。当院は脳神経外科、脳卒中に特化した急性期病院ですので、循環器や消化器、呼吸器、ガンなどの患者様の治療をお願いすることがありますので、高齢者だからと断らずによりしくお願いします。

《3.最近の出来事》

35年ぶりの中学校の同窓会が埼玉の熊谷市で開催され昔の仲間に出会ってきました。熊谷に帰りたくなくなりましたが、オホーツクの地で生涯、地域貢献する決意をしてみました。そのほか、いろいろありすぎて書ききれません。

社会医療法人明生会 道東脳神経外科病院



〒090-0069

北見市美山町東2丁目68番9

TEL (0157) 69-0300

院長：木村輝雄

出身大学：旭川医科大学医学部(平成2年卒)

出身地：埼玉県、熊谷市

所属学会：日本脳神経外科学会 専門医

資格分野 日本脳卒中学会 専門医 代議員

日本正常圧水頭症学会 理事

北見医師会 理事 医政担当

日本医師会 認定産業医

所属学会：日本脳神経外科学会 日本脳神経

外科コンgres 日本脳卒中学会

日本脳卒中の外科学会 日本脳腫

瘍の外科学会 日本脳循環代謝学

会 日本磁気共鳴学会 日本正常

圧水頭症学会 日本認知症学会

など

〈診療受付時間のご案内〉

	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	×
午後1:30~4:30	○	○	○	○	○	×	×

登録医紹介

■山内院長先生質問コーナー

診療科：産科・婦人科



趣味は何ですか？

—— 温泉巡り

これだけは譲れない「こだわり」は何ですか？

—— 産後の非日常的なサービス

《自院紹介》

中村俊夫前院長が昭和48年6月に開院した中村産婦人科医院を継承し、この度昨年11月に中村記念愛成病院として高栄東町に新築・移転いたしました。女性にとって出産は一生において一大イベントであり、周りの家族にも幸せをもたらす出来事であるという思いが以前からありましたので、新病院は院内をお祝いの意味を込めて少しホテルライクにしてみました。経産婦さんも多いので、子供と一緒に畳の上で遊ばせることもできる和室タイプのファミリールームも設けています。

創設者の中村先生が築いてきた「もてなしの心」をハード・ソフトの両面から継承し、さらなる良い病院づくりを追求していきたいと思えます。今年から、体外受精などの高度生殖医療や小児科も併設しますので、地域の医療連携も含めて今後とも宜しくお願いいたします。

医療法人社団公和会 中村記念 愛成病院



〒090-0051

北見市高栄東町4丁目20番1号

TEL (0157) 24-8131

理事長・院長：山内智文

出身大学：旭川医科大学医学部(平成5年卒)

出身地：旭川市

所属学会：日本産婦人科学会・専門医

日本産婦人科乳癌学会、

日本女性医学会、日本東洋医学会

日本感染症学会

〈診療受付時間のご案内〉

	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	×
午後1:30~5:00	○	×	※	×	○	×	×

○火・木の午後は手術のため休診 ※水曜日の午後の受付は2:00~5:00

○時間外診療は電話にて要予約

脳神経外科外来紹介

変わる外来診療

副院長 鈴木 美 望
メディカルクラーク 中村 美 貴

当院はオホーツク医療圏地方センター病院及び救命救急センターを有し、2次〜3次救急を主に担っています。他院から紹介された方や重症の方緊急処置を要する患者さんが多いのが特徴です。脳神経外科外来は、救命救急センター開設1年前の平成3年4月から鈴木（現副院長）が担当し、その後入院診療も開始となり、医師3人体制となりましたが、現在は鈴木・高杉の2人で診療を行っています。対象となる疾患は、脳血管障害（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）が圧倒的に多く、その他、脳腫瘍（原発性、転移性）頭部外傷、水頭症、小児神経外科疾患などで、入院治療を主として幅広く治療を行っています。

○外来診療における疾病構造の変化

従来、外来診療の中心は脳卒中慢性期の患者さんや頭痛を主訴とした患者さんがほとんどでした。現在明らかに異なる点は、著しい高齢化社会の進行に伴う疾患の増加です。それらのほとんどがいわゆる神経内科疾患で、パーキンソン病、レヴィー小体病、認知症（アルツハイマー病、脳血管障害型認知症）、正常圧水頭症、そして高齢発症で初発するてんかんは近年注目されている疾患で、失神などの識別が難しく多数の医療機関を受診することが多い現状です。脳波検査を行っても棘波が認められないことが多く診断に苦慮しますが、試験的に抗てんかん薬を投与することにより、症状が消失することで診断できる場合もあります。また、近年外来で行える極めて有用な検査としてパーキンソン病やレヴィー小体病の診断にMIBG心筋シンチがあります。高額な検査ですが、早期の診断・治療に繋がる検査として注目されています。一方、認知症の検査としてはMRI・VSRAD、SPECTを行っており、診断に役立っています。

○外来組織の近代化

当科は外来組織の近代化のため、メディカルクラーク（医師事務作業補助者）を配置しています。医師の事務作業を代行することで医師の負担を軽減し、医療の質の向上を患者サービス改善に繋げることを目的としており、診察介助、検査・画像オーダー入力、退院サマリー作成、書類作成、

各種データ整理などを主な業務としております。これらの業務をメディカルクラークが担うことにより、医師だけではなく、看護師や受付事務が本来の専門業務に集中できることへも繋がっており、外来診療がより円滑に行われるようになっております。今後も質の高い患者サービスを目指し、広がりを見せるメディカルクラークの役割がより良いものへとなるよう力を入れて行きたいと思っております。

○外来診療

現在、外来診療は月曜から金曜の午前中に行っており、火曜・水曜・金曜は再来・新患・地域連携紹介の患者様、月曜・木曜は緊急を要する患者様のみの対応とさせていただきます。スタッフは医師2名（鈴木・高杉）、看護師（横島）、メディカルクラーク（中村）、受付事務（板野）にて診療を行っております。平成20年からは本格的に脳ドック事業を立ち上げました。脳のMRI・MRA検査や種々の生化学検査、脳神経外科専門医の診察などをセットしたものです。月曜日の午後、完全予約制で行っておりますので、是非ご利用下さい。

脳神経外科は「断らない外来診療」をモットーとしております。

日頃、北見市内及びオホーツク全域の医療機関の先生方から様々なご紹介をいただいておりますが、今後も更に質の高い対応を行えるよう努力していきたいと思っております。何卒よろしくお願い致します。



周産期救急ドクターカーに関する協定書調印式を終えて

平成25年4月25日
医事課 澁谷 尚 紀

当院はオホーツク圏における総合周産期母子医療センターとして、低体重など出産時に重篤な疾病を抱えて生まれてくる赤ちゃんやそのお母さんのケアのためハイリスク分娩を受け入れております。しかし、広大なオホーツク圏では、産婦人科医の偏在等で、搬送に最大約2時間を要する地域もあり、母子・胎児に対するリスク増大が懸念されておりました。

このような背景から、北海道の北網地域医療再生計画の一事業として、地域における安心・安全な出産を確保するため、周産期救急対応型のドクターカー導入について検討することになりました。

院内では平成22年4月から「周産期救急ドクターカー部会」を立ち上げ検討して参りました。北見地区消防組合や美幌・津別広域事務組合等の各関係機関の協力を得て、本年3月、車両等の整備を完了することができました。

去る4月22日、当院大講堂において調印式を開催し、当院と北見地区消防組合において、ドクターカー運用についての協定書を取り交わしました。

調印式は、北見地区消防組合及び美幌・津別広域事務組合の関係者をはじめ、当面の運行範囲であります置戸町、訓子府町、美幌町、津別町の町長及び各市町議会の議長の皆様をお招きして執り行いました。

このドクターカーの利用については、緊急時に119番通報で救急車要請すると、北見地区消防組合の通信指令室または現場救急隊員が、あらかじめ定めてあるドクターカー要請基準に則ってドクターカー出動の可否を判断することになっております。さらに、車両の運転操作も救急車同様に救急救命士又は救急隊員が行うため、通報から現場到着までの流れを円滑に行うことができます。

このように、北見赤十字病院と地域消防組合の連携が、この地域の周産期を含む救急医療を一層向上させることで、これまで以上に地域住民に大きな安心と安全を提供できるものと確信しております。

現在、院内では5月13日からの運行に向けて関係スタッフが最終的な準備を行っております。今後も院内外の関係者が一丸となって地域の皆様の期待に応えていけるよう努力して参ります。



災害拠点病院4病院の相互支援協定・調印

平成25年3月6日(水)18時から、網走セントラルホテルにおいて、オホーツク圏域災害拠点病院4病院(広域紋別病院・遠軽厚生病院・網走厚生病院・北見赤十字病院)の災害時における相互支援に関する協定調印が、オホーツク振興局長の立会いの下に執り行われました。

この協定は、地震・台風などの自然災害により被災し、被災病院で独自では十分に患者の身体・生命の安全等緊急措置に対応できない場合に、圏域内の他の災害拠点病院が相互に連携・協力し、被災病院において、医療活動を継続し、適切な医療を提供するために締結したものです。

本協定には、災害により協定病院の医療機能が麻痺し、患者対応等において十分に機能しないと判断した場合には、協定病院に配置された「災害支援コーディネーター」が要請の有無に関わらず、協定病院の連携により支援できる体制整備を図ることが出来る様になった事が最大のポイントになります。

当院の災害支援コーディネーターには、荒川副院長が任命され、今後、4病院の災害支援コーディネーターにより、平時から情報共有を図り、災害時の円滑な相互協力の在り方について協議される予定です。

本協定を提案した、当院の吉田院長は挨拶で「災害が発生した際には、全国からの応援が到着するまで、最短でも1日から2日を要しますが、オホーツク圏域の立地条件を考えますと、もっと遅くなる可能性があります。災害時には、迅速に対処しなければ生命に関わるため災害支援コーディネーターの配置により、事前準備を整え万が一に備えて行きたい」とのコメントを述べました。

協定病院の各院長からは、「北見赤十字病院が各災害拠点病院をリードして相互支援体制を強固なものにしていただきたい」との要望がありましたので、当院の職員は、オホーツク圏域の災害拠点病院として、リードしていく立場にあることを自覚し、常日頃から災害時の対応等に関心を傾け、どの様に対応すべきか、北見赤十字病院の常備救護班・3個班とD-MAT・1個班の体制のみならず、全職員が一丸となって対応するとの思いを一つに取り組みで参りたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。



～ 新しい医師を紹介しま～す ～

(平成25年4月～)



内科医師
大堀 克彦



内科医師
金塚 雄作



消化器内科医師
宮本 秀一



消化器内科医師
杉浦 諒



第二循環器内科副部長
徳原 教



第一小児科副部長
伊藤 智城



小児科医師
戸澤 雄介



外科医師
宮谷内 健吾



外科医師
山田 徹



整形外科医師
佐藤 剛



整形外科医師
光武 遼



第一泌尿器科副部長
玉木 岳



第二産婦人科副部長
根岸 秀明



第三麻酔科副部長
樋口 美沙子



麻酔科医師
葉山 洋子



臨床研修医
江畑 信孝



臨床研修医
江畑 加奈子



臨床研修医
山西 竜太郎



臨床研修医
佐藤 紀夫



臨床研修医
加藤 晶



臨床研修医
米澤 嘉朗

アルコールリハビリテーションプログラム(ARP)のご紹介

ARPスタッフ……医 師：嶋田進一郎 作業療法士：武藤健大
看護師：青野裕太・武田美恵子

現在、日本の飲酒人口は6500万人といわれています。その中で大量飲酒者は236万人と推定されています。近年、飲酒に起因する障害（暴力、離婚、虐待、欠勤、生産性低下、事故、犯罪）が社会問題化しています。

皆様、一度は「アルコール依存症」という病名をお聞きになったことがあるのではないのでしょうか？アルコール依存症という病気は、アルコール依存症自身が断酒をしようと行動を起こさない限り、解決の道が見いだせない病気です。無理やり酒を飲まないようにする事や、飲酒問題をなくす事も不可能なのです。また、不適切な飲酒は全身に影響を与え、さまざまな障害を引き起こします。代表的なものは肝障害であり、その他として消化管障害や膵炎、糖尿病、神経障害などが引き起こされます。アルコールは中枢神経に作用する薬物であり、さまざまな精神症状も引き起こします。飲酒を続けることによって、健康や仕事、家庭を失い、最後は命を失うという怖い病気です。しかし、アルコール依存症は、断酒しリハビリを行うことで回復する病気です。

当院では平成24年より、アルコール依存症の入院患者に対して、専門の研修を終了した医師、看護師、作業療法士による教育と回復のためのアルコールリハビリテーションプログラム(ARP)を実施しています。

当院のアルコール依存症治療は二つの治療期間に分かれています。1期治療は解毒と離脱症状の管理を行ないます。その後、2期治療に移行し、看護師との定期的な面談を通して、病気について正しい理解を得ていただき、具体的な回復のイメージを持っていただくことを援助しています。また、作業療法を通して、身体の回復を実感し、素面の仲間作りをしていただきます。また、週に1回の断酒会への参加もあり、回復者の体験を聞くことができます。

アルコール依存症からの回復には、ご家族のご理解と適切な対応が欠かせません。アルコール依存症は家族を巻き込む病気です。ご家族がアルコール依存症について学ぶことも、とても大切であるため、断酒会の参加もおすすめしています。



平成25年度 内科系3診療科 オープンカンファレンスのご案内

場 所 北見赤十字病院 東館4階 大講堂A



	開催予定日	時間	担当診療科	
第1回	平成25年4月25日(木)	午後18時30分	消化器内科	内科・総合診療科
第2回	平成25年5月16日(木)	午後18時30分	内科・総合診療科	循環器内科
第3回	平成25年6月20日(木)	午後18時30分	内科・総合診療科	消化器内科
第4回	平成25年7月18日(木)	午後18時30分	特別講演会 オホーツク医療環境研究講座 札幌医科大学 内科学第一講座 教授 篠村 恭久先生	
第5回	平成25年9月19日(木)	午後18時30分	循環器内科	内科・総合診療科
第6回	平成25年10月17日(木)	午後18時30分	消化器内科	内科・総合診療科
第7回	平成25年11月21日(木)	午後18時30分	内科・総合診療科	循環器内科
第8回	平成26年2月20日(木)	午後18時30分	内科・総合診療科	オホーツク医療環境研究講座 志谷 特任助教

